

月報だより

月報だよりの原稿は毎月 20 日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい。

e-mail で jimu@geppou.asj.or.jp 宛、なお、原稿も必ず Fax で 0422-31-5487 迄お送り下さい。

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員（ポスト・人数など）、2. (1) 所属部門・所属講座、(2) 勤務地、3. 専門分野、4. 職務内容・担当科目、5. (1) 着任時期、(2) 任期、6. 応募資格、7. 提出書類、8. 応募締切・受付期間、9. (1) 提出先、(2) 問合せ先、10. 応募上の注意、11. その他（待遇など）

国立天文台

地球回転研究系助手

1. 助手 1 名
2. (1) 地球回転研究系、
(2) 東京都三鷹市または岩手県水沢市
3. 地球・惑星科学分野
4. 現在、地球回転研究系では重力、潮汐、地形など測地学的手法による月・惑星の研究を行うと共に、将来のスペース（月面を含む）での天文観測を視野に入れた将来構想の検討も進めています。今後の月周回衛星を用いた測月学ミッションの装置開発をしつつ、月の起源や進化の研究に意欲的に取り組む助手を求めます。
5. 決定後なるべく早い時期
6. 大学院修士課程終了、又はそれと同等以上。
7. (1) 略歴書、(2) 研究歴（これまでの研究内容の概要）、(3) 研究論文リスト（査読論文とその他を区別し、共著の主要論文には役割分担を記すこと）および主要論文別刷り（5 編以内）、(4) 研究計画

書、(5) 本人について意見を述べられる人 2 名の氏名と連絡先、(6) 他薦の場合は推薦書の他に、前記事項(1)～(5)の概要がわかる書類。

8. 平成 14 年 4 月 15 日(月) 必着
9. (1) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台長 海部宣男
(2) 〒023-0861 岩手県水沢市星ガ丘町 2-12
地球回転研究系主幹 河野宣之
Tel: 0197-22-7122 Fax: 0197-25-6619
E-mail: kawano@miz.nao.ac.jp
10. 封筒に「地球回転研究系助手応募書類在中」と朱記し、郵送の場合は簡易書留でお送りください。選考は国立天文台運営協議員会において行います。

国立天文台

4 次元デジタル宇宙プロジェクト研究員

1. プロジェクト研究員 2 名
2. (1) 理論天文学研究系
(2) 東京都三鷹市
3. 天文学もしくは可視化技術、コンピュータプログラミング
4. 国立天文台では科学技術振興事業団の計算科学技術活用型特定研究として「4 次元デジタル宇宙データの構築とその応用」(代表海部台長)が 2002 年 2 月から開始される。このプロジェクトでは天文観測・シミュレーションデータを使い専用の立体可視化装置を用いて、研究・広報普及のためにコンテンツを製作する。熱意をもって可視化作業、コンテンツ作成を行なえる方を希望する。
5. (1) 平成 14 年 4 月 1 日
(2) 2 年
6. 大学卒業またはそれと同等の学力を有する者で、原則として採用時 35 歳未満の者
7. (1) 履歴書、(2) 研究歴、(3) 研究論文リスト(査読論文とその他を区別し、共著の主要論文には役割分担を記すこと)、(4) 主要論文の別刷またはコピー、(5) 研究計画書、(6) 本プロジェクトに対する抱負(可視化、コンピュータグラフィックスなどの経験がある場合はその概要を含む)
8. 平成 14 年 3 月 14 日(木) 17 時まで必着
9. (1)、(2) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台教授 観山正見
Tel: 0422-34-3738
10. 封筒の表に「4 次元デジタル宇宙プロジェクト研究員応募書類在中」と朱記し、郵送の場合は簡易書留で送付すること。

人事公募結果

1. 掲載号
2. 結果（前所属）
3. 着任時期

立教大学理学部物理学科教員

1. 第 94 巻 10 号
2. 須佐 元（筑波大学物理学系助手）
3. 2002 年 4 月 1 日

会 務 案 内

正会員向け電子版アクセス制限開始について

昨年より、PASJ 電子版の無料公開を行ってきましたが、今年発行の 54 巻より有料公開とし、アクセス制限を開始することになりました。これにより、天文学会正会員と海外購読機関（大学、研究機関等）に所属する方々のみが閲覧可能となります。アクセス制限の開始日は 54 巻 1 号の発行日（2002 年 2 月 25 日）とします。但し、各論文のアブストラクトのみ、今後とも制限なく閲覧可能です。また、既存の 53 巻（2001 年）のフルテキスト（HTML/PDF/PS）も引き続き無料で公開します。

正会員向けには、個人別 ID とパスワード入力による認証を以下の要領で行ないます。

- ・ ID は会員番号の前に asj をつけたものです。
（例：会員番号が 9999 の場合、「asj 9999」と入力）
- ・ パスワードの初期値はこちらで設定し、開始日から 2002 年 6 月 25 日まで有効。
- ・ パスワードのみ各個人での変更が可能ですので、アクセス制限開始後、各自パスワード変更の作業を行って下さい。
- ・ 54 巻 1 号（2002 年 2 月 25 日発行）の紙版にパスワード初期値を同封します。（紙版を寄贈されている方は、別途書面にて通知致します。）

尚、正会員であってもアクセス制限開始時点で 2002 年の会費が未納の方は、電子版の閲覧はできません。以後も同様に、該当年の会費未納者の閲覧はで

きませんので、会費の納め忘れがないようお願い致します。アクセス制限についてご不明な点、ご質問がありましたら PASJ 編集部（office@pasj.asj.or.jp）までお問い合わせ下さい。PASJ のホームページでも案内をしておりますので、そちらもご覧下さい。

〈<http://www.asj.or.jp/pasj/ja/index-J.html>〉

PASJ 編集部

【理事会議事録】

日時：2002 年 1 月 12 日（土）

11 時 00 分～16 時 30 分

場所：国立天文台（三鷹）講義室

出席者：田原、松田、郷田、大石、松原、立松、上野、大橋、茂山、加藤、松元、吉田、山内
以上 13 名

欠席者：唐牛、黒田 以上 2 名

有効委任状提出者：唐牛、黒田 以上 2 名

他に、東條事務長が参加した。

議事に先立ち、署名人を選出した

議 長：田原博人

署名人：郷田直輝、大石雅寿

【報 告】

1. 前回議事録の確認（資料 1）

郷田理事より前回（2001 年 10 月 6 日）の理事会議事録が報告され、誤植を修正の上承認された。

2. その他

(1) 2004 年以降の年会について

郷田理事より 2004 年秋季年会は岩手大学と国立天文台水沢がホストとなって岩手大学（盛岡）を会場として開催する予定となること、2005 年秋季年会については北海道大学工学部がホストとなること、が報告された。さらに 2005 年春季年会の開催地について意見交換を行った。

(2) 宇宙 3 機関の統合に関する要望書について

2001 年 11 月に文部科学省に提出した宇宙 3 機関の統合に関する要望書に関連する対外的な動きについて、田原理事長と郷田理事より簡単な報告があった。

(3) 2002 年秋季年会会場について

山内理事より、秋季年会の会場等について当初予定に沿って実施できるであろうという見通しが報告された。

【議 題】

1. 2001 年度事業報告案について（資料 2）

2001 年度事業報告案を郷田理事が説明し、質疑応答の後、同報告書案は承認された。

2. 2001 年度収支決算報告書案（資料 3）及び監査報告書（資料 4）について

2001 年度収支決算報告書案を松原理事が報告し、質疑応答の後、報告書案は承認された。また 2002 年 1 月 11 日に実施された監査の結果、上記事業報告案及び収支決算報告書案が正当であると認められたことが監事の代理として郷田理事が報告した。さらに、監事からの付帯意見として、早川基金の採択者を決める際には採択の敷居があまり低くなりすぎないように注意することが求められたことが紹介された。これに関連して早川基金の支出費目等について意見交換を行った。

3. 新入会員等の承認について (資料 5)

新入会員等の名簿が郷田理事より示された。28 名の新入正会員、4 名の準会員から正会員への移籍などが承認された。同時に退会者に関する報告も行われた。

4. 財政改革案に関して (資料 6)

天文学会の一般会計財政改革に関する検討結果を松原理事が説明した。主な提案は、2 つであった。

1) 非会員の年会登録料・講演登録料などを見直すことによって、非会員のまま年会に参加するよりも会員になるほうが有利となることを示して会員数が増えるように誘導する。

2) 正会員 (学生) の会員期間を本人に自己申告してもらい、期限がきても特段の連絡がない場合は自動的に退会処理を行う。これを実施するメリットは、現在行っている卒業後の学生への会費請求や郵便物の送付が不要になること、及び、会費の自動引き落としに依り易くなることである。これらの内容について評議員会や春季総会で説明を行って理解を求めると共に、評議員会や総会場で出る意見を踏まえてより良い実行案とすること、また、これらの改訂のメリット／デメリットを会員によく周知する必要があることを確認した。これに関連して、現在提出をお願いしている学生証のコピーの送付依頼は不要とする方針を決定した。

一方、評議員総数を 30 名から 20 名にする件については次回の評議員会で議論をお願いすることとした。PASJ 電子版が刊行補助金の対象にできるかどうかについては他学会とも連携し、慎重に対応することとした。月報記事の内容・原稿の長さが多くの読者にとって必ずしも最適化されたものではないことが認識されており、この問題については編集委員会が責任をもって対応する方針であることを上野理事が報告し、理事会としてこの方針を支持することとした。茂山理事から年会予稿集の書籍扱いが可能になったことの報告があったと共に、天文月報に掲載する年会プログラムを掲載著者数を減らすことを通じた簡略化 (携帯化) の検討を行った結果、印刷費の節約が可能であることが明らかになった。これについて意見交換を行い、携帯しやすいプログラム集を作成するメリットが大きいので、この方針を支持することを決定し、次回評議員会

へ諮ることとした。予稿内容の学情センターへの登録 (英語の要旨が必須) についてはさらに検討することとした。

5. 総会のあり方について (資料 7)

天文学会総会の実施方法について検討した結果を郷田理事が下記のように報告した。年会プログラム構成を工夫し、全てのセッションの予定終了時刻を総会開始予定時刻の少なくとも 30 分前とし、20 分前から総会出席正会員の受付 (確認) 作業を開始して予定時刻になったら受付を終了して有効出席者数を確定させる。受け付けられた正会員には札を渡し、賛否はその札を上げることにより行い、準会員や遅れて入場した正会員のオブザーバー参加を可能にする。(オブザーバーには議決権は与えない)。また、途中退席者には会場出口で札を返却してもらい、議決を採る際の出席者数から除外する。民法第 62 条及び第 64 条により議決の対象となる議案は事前に全社員 (正会員) に提示しなければならないこと、また、民法第 65 条により表決権に関して全社員は平等であることから、総会時の修正提案は受け付けることができない。また、「議長」への委任は定款第 40 条によると理事長への委任となるため、これまで通り無効と扱い、個人名をあらわに出した委任状のみ有効と扱う。

これらについて意見交換を行った後原案を了承し、さらに評議員会の意見も踏まえた上、春季総会で説明する方針を確認した。

6. 2002 年春季年会 (茨城大学) について

2002 年春季年会の準備状況等について茂山理事が報告を行った。講演申し込み数は 498 件、ジュニアセッションは約 20 件 (British council からの参加あり) である。セッション会場は 7 会場用意し、年会講演は 6 会場で行い、ジュニアセッションや ALMA 特別セッションは 7 会場目 (人文学部講義棟) で開催予定である。その後吉田理事から報告があった。ポスター会場は体育館なので 3 日間張り替えなしでポスター発表が可能である。公開講演会の講師は田中秀和氏 (東工大)、岡村定矩氏 (東大) であり、3 月 31 日 (日) に茨城県立図書館で実施されるが、会場借り上げの便宜を図るため茨城県立図書館との共催とすることを了解した。宿泊手配等を日本旅行に依頼しており、そのホームページを学会ホームページにリンクすることを了解することとした。

7. その他

(1) 茂山理事から 2002 年秋季年会から企画セッションにおいてコンピーナー制を試行する提案があった。コンピーナーにはセッションにおける口頭発表とポスター発表の選択、レビュー的講演の選定、発表時間の割当、座長の決定などの権限を与える。理事会として試行を支持することとした。また、本件を次回評議員

会に諮ることとした。

(2) 公開講演会の講師の選定に当たっては、プレゼンテーション力、知名度、開催地の要望などの要素を考慮し、天文教育理事が中心となって仕事を進めることを確認した。

(3) 春季総会の議題として、事業報告、収支決算報告を議案とし、財政改革について会員の意見を募ることを確認した。

(4) 2003～2004年の役員候補の選定は、5月を目処に行うという方針を確認した。

(5) 次回の理事会・評議員会の予定を以下のように決定した。

理事会：2002年3月28日(木)

評議員会：2002年3月29日(金)

上記予定はこれまでの慣例と異なり理事会が評議員会に先行するが、これは理事会として評議員会に諮るべき事項に関し理事会として正式に承認するために必要な措置であるとの認識に立ち、今回試行することとしたものである。

2002年1月26日

議長 田原博人 印

署名人 郷田直輝 印

署名人 大石雅寿 印

正会員各位

社団法人 日本天文学会 理事長 田原博人

2002年度春季総会開催のお知らせ

一 綴じ込みの返信用葉書で3月22日(金)

までに到着するようご投票を！

下記の通り2002年度春季総会を開催いたしますので、ご出席下さるようご案内申し上げます。総会は本会の最高決定機関で、総会成立には正会員の5分の1以上の出席が必要です(定款第42条)。欠席される場合には、下記の議案および説明をよくお読みの上、次の(1)または(2)のどちらかの対応をして下さい。いずれの場合も、総会出席とみなされます。

(1) 綴じ込みの総会返信用葉書(以下「葉書」と呼ぶ)を用いて賛否の意志を表明する。

(2) 他の出席予定者の正会員に表決権の行使を委任する。

「葉書」は、3月22日(金)までに天文学会事務局に到着するように投函して下さい。「葉書」には切手を貼る必要はありません。なお、下記の「投票および委任状の書き方」を参照して下さい。

○2002年度春季総会

日時：2002年3月29日(金)

15時30分～17時00分

(総会出席者確認：15時30分～16時00分、総会開始16時00分)

場所：茨城大学 人文学部講義棟10番教室

注意：総会出席確認作業の時間中に会場へ入場して下さい。確認された方には表決の時に必要な札をお渡しします。

○議案の内容と説明

第1号議案 2001年度事業報告

天文月報2002年3月号155～158ページ参照

第2号議案 2001年度収支決算報告、監査報告

天文月報2002年3月号159～165ページ参照

上記の議案以外に、その他の議題(議決をとるものではありません)として

- 1) 非会員の年会登録料の改訂
 - 2) 正会員(学生)の会員期間の自己申告について
 - 3) 総会の運営方法について
- の議論を行う予定です。

また、2001年度各賞の授与式を行います。

○「投票および委任状の書き方」

総会に出席できない正会員は、綴じ込みの総会返信用「葉書」で議案に対する賛否の意志表示をするか、委任状を提出して下さい。(委任状にはとくに指定の用紙はありません。)

賛否の意志表示をされる方は、それぞれの議案について「賛成」、「反対」のいずれかを○で囲んで下さい。賛成・反対以外にご意見があれば、所定の欄に記入し、書ききれないときは別紙に書いて事務局宛にお送り下さい。

なお、次の投票は無効となり、出席会員数に数えません。

- 1) 所定の「葉書」を用いないもの。
- 2) 会員番号、住所(または勤務先)の両方を欠くもの。
- 3) 氏名を自署していないもの。
- 4) 投票権のない者からの投票(正会員以外の者)。
- 5) 2重投票

次の票は出席会員数には入れるが、棄権票として扱います。

- 1) 賛成、反対の意思表示をせず、意見だけを書いた票。
- 2) 白票。

委任状については、次の場合に無効となります。

- 1) 委任正会員の氏名、自署、捺印のいずれかを欠くもの。
- 2) 委任正会員の会員番号、住所(または勤務先)の両方を欠くもの。
- 3) 被委任正会員の氏名を欠くもの。
- 4) 被委任正会員が総会に出席しない場合。
- 5) 被委任正会員として、単に役職名の「理事長」または「議長」と書かれたもの。

[第1号議案]

社団法人 日本天文学会 2001 年度事業報告(案)

2001 年度は本会創立 94 年, 社団法人設立後 67 年にあたる。

I. 出版物の刊行

1. 欧文研究報告 (Publications of the Astronomical Society of Japan) : 第 53 巻 1 号 ~ 6 号, 総論文数 136 編, 総頁数 1,312, 発行部数 1,800 部, 偶数月の 25 日発行, 科学研究費補助金 (定期刊行物) 740 万円を受領
2. 天文月報 : 第 94 巻 1 号 ~ 12 号, 総頁数 640, 総目次 9 頁, 発行部数 3,250 部, 毎月 20 日発行
3. 年会予稿集 : 2001 年春・秋季年会の 2 回発行, 総頁数 660, 各 850 部印刷
4. ジュニアセッション : 春・秋講演予稿集 58 頁, 各 500 部印刷
5. 春・秋公開講演会 : 冊子 26 頁, 850 部印刷

II. 年会の開催

1. 2001 年春季年会 (千葉県)

◇ 年 会 : 3 月 26 日(月) ~ 3 月 28 日(水)

千葉大学 (千葉市稲毛区) の 9 会場 (口頭発表用 7, ポスター発表用 2) を使って開催された。

・参加者 : 697 名 (うち学生 363 名) 他にジュニアセッション・教育フォーラムのみの参加者 102 名

・講演数 : 446 件 (口頭 254, ポスター 192) 他にポストデッドライン講演 4 件

・企画セッション : 「大規模シミュレーション」と「銀河形成」の 2 セッションを開催した。

・懇親会 : 3 月 27 日(火) 19:15 ~ 21:00

学生会館第二食堂 参加者約 180 名 (うち学生約 50 名)

◇ 記者会見 : 3 月 25 日(日) 13:00 ~

千葉大学けやき会館第二会議室

第 5 回林忠四郎賞受賞者の発表を行うと共に, 年会講演から 3 トピックスを選び, 5 報道機関と会話し資料を提供した。

◇ 公開講演会 : 3 月 25 日(日) 14:00 ~ 17:00

千葉大学けやき会館 参加者約 80 名

「21 世紀の天文学」

- (1) 暗黒の宇宙に光をあてる : アンデス巨大電波望遠鏡 ALMA (アルマ)

(国立天文台教授 長谷川哲夫氏)

- (2) 宇宙が発する声を聞きたい : 重力波天文学への挑戦

(国立天文台教授 藤本眞克氏)

◇ 天文教育フォーラム :

3 月 26 日(月) 15:30 ~ 17:00

参加者約 200 名

「課外活動における天文教育」

スペースガード協会や公開天文台における実践報告, インターネットを使った新しい可能性の紹介があった (天文教育普及研究会と共催)。

◇ ALMA 特別セッション :

3 月 26 日(月) 17:00 ~ 19:00

参加者約 180 名

「ALMA で探る宇宙」

講演 1 : イントロダクション = 各種経過・進捗状況の説明

(国立天文台教授 石黒正人氏)

講演 2 : FROM MOLECULES TO PLANETS : PROSPECTS FOR ALMA (ALMA 科学諮問委員会議長, オランダ・ライデン大学教授, Ewine van Dishoeck 氏)

講演 3 : 比較惑星形成論への展望 (国立天文台教授 観山正見氏)

(本セッションは, 日本天文学会・日本学術会議天文学研究連絡委員会・国立天文台電波専門委員会 ALMA 計画推進小委員会の三者による共催)

◇ ジュニアセッション :

3 月 26 日(月) 14:00 ~ 15:30

参加者約 250 名

中学生と高校生が天文学の研究について発表する, 第二回ジュニアセッションを開催した。口頭発表 10 件 (うち 9 件はポスターでも発表), ポスターのみ発表は 3 件であった。

◇ 保育室 : 2 家族, 子ども延べ 8 名の利用があった。

2. 2001 年秋季年会 (兵庫県)

◇ 年 会 : 10 月 4 日(木) ~ 10 月 6 日(土)

イーグレひめじ及び姫路市民会館 (姫路市本町) の 8 会場 (口頭発表用 6, ポスター発表用 2) を使って開催された。

・参加者 : 750 名 (うち学生 268 名) 他にジュニアセッション・教育フォーラムのみの参加者 79 名。

・講演数 : 521 件 (口頭 : 307, ポスター : 214) 他にポストデッドライン 4 件

・企画セッション : 「突発天体・突発現象」と「超巨大ブラックホールの形成」の 2 セッションが開催された。

・懇親会 : 10 月 5 日(金) 18:30 ~ 20:30

イーグレひめじ屋上

参加者約 370 名 (うち学生約 120 名)

◇ 記者会見：10月3日(水) 13:30～

イーグレひめじ4階会議室

年会講演から3トピックスを選び、8報道機関と会見し資料を提供した。

◇ ALMA 特別セッション：10月4日(木)

17:00～19:00 参加者約300名

「ALMAで探る宇宙—銀河の形成と進化—」

本セッションは、日本天文学会・日本学術会議天文学研究連絡委員会・国立天文台電波専門委員会ALMA計画推進小委員会の三者による共催で、以下のように進められた。

1. あいさつ

(天文研連委員長／名古屋大学教授 池内 了氏)

2. ALMA計画の現状と今後

(国立天文台教授 川辺良平氏)

3. ALMAで探る銀河の初期進化

(京都大学助教授 太田耕司氏)

4. 銀河形成の諸問題とALMA

(筑波大学助教授 梅村雅之氏)

5. 総合討論—ALMAの共同利用について—

◇ スーパー SINET 特別セッション：10月6日(土)

14:00～15:30 参加者約80名

◇ ジュニアセッション：10月6日(土)

15:30～17:00 参加者約150名

口頭発表6件(ポスターでも発表)、ポスター発表1件

◇ 天文教育フォーラム：10月6日(土)

14:00～15:30 参加者約120名

「現代新天体発見事情」

天体発見賞選考委員会委員長山岡 均氏から、過去から現在に至る新天体発見の傾向と、天文学会としての発見賞の考え方と実状についての報告があった。続いて、中野主一氏、櫻井幸夫氏、高見澤今朝雄氏の3氏から、彗星・新星・超新星等の新発見に携わってきた人たちの発見生活の実態と、個人生活の様子について興味深い講演があった(天文教育普及研究会と共催)。

◇ 公開講演会：10月7日(日)

イーグレひめじ3階多目的ホール 参加者約120名
「宇宙生命を求めて」

1. 講演 地球人はいつまで人間してられるか

(兵庫県立西はりま天文台公園長 森本雅樹氏)

2. 対談 宇宙と生き物たち

(宇宙科学研究所教授 平林 久氏)

(宇宙科学研究所助教授 黒谷明美氏)

なお、本講演会は文部科学省科学研究費補助金(研究成果公開発表B)により行われた。

◇ 保育室：3家族、子ども延べ8人の利用があった。

III. 各賞の授与

春季通常総会(千葉大学)の場で、以下の方々に2000年度の各賞を授与した。

★天体発見賞

櫻井幸夫氏：新星いて座 V4642 の発見

長谷田勝美氏：新星たて座 V463 の発見

高見澤今朝雄氏：新星わし座 CI の初回再発の発見

山本 稔氏：同 上

青木昌勝氏：超新星 2000db の発見

同 上：超新星 2000di の発見

宇都宮章吾氏：彗星 2000w1 (宇都宮-Jones) の発見

金津和義氏：特異天体とも座 V445 の発見

★天体発見功労賞

門田健一氏：シュワスマン・ワハマン第3周期彗星(73P)のE核の発見

杉江 淳氏：マックホルツ第2周期彗星(141P)のD核の初回回帰の検出

★研究奨励賞(第12回)

山内茂雄氏：岩手大学人文社会科学部助教授

「あすか」衛星を用いたX線領域での銀河面サーベイ研究

★林 忠二郎賞(第5回)

稲谷 順司氏：宇宙開発事業団招聘研究員

野口 卓氏：国立天文台助教授

高感度ミリ波サブミリ波検出器の開発

★欧文報告論文賞(第5回)

論文名：ASCA Measurements of Silicon and Iron Abundances in the Intracuster Medium (Publ. Astron. Soc. Japan, vol.50, pp.187-193, 1998)

共著者：Y. Fukazawa, K. Makishima, T. Tamura, H. Ezawa, H. Xu, Y. Ikebe, K. Kikuchi, and T. Ohashi 以上8名

IV. 総会・評議員会および理事会

1. 総会

2001年度春季総会

日時：2001年3月27日(火)

16:30～18:30

場所：千葉大学法経学部105講義室(千葉市)

議長：田原博人理事長(天文月報2001年6月号 p273 議事録参照)

2001年度秋季総会

日時：2001年10月5日(金)

16:30～18:15

場所：イーグレひめじ3階多目的ホール(姫路市)

議長：田原博人理事長(天文月報2001年12月号 p634 議事録参照)

2. 評議員会

日時：2001年1月27日(土)

11:30 ~ 16:00

場所：国立天文台講義室（三鷹）

議長：井上 一評議員

（天文月報2001年4月号p190議事録参照）

日時：2001年3月27日(火)

12:00 ~ 13:30

場所：千葉大学総合校舎A号館小会議室

（千葉市）

議長：佐藤勝彦評議員

（天文月報2001年6月号p272議事録参照）

日時：2001年7月14日(土)

11:00 ~ 15:30

場所：国立天文台講義室（三鷹）

議長：渡部潤一評議員

（天文月報2001年10月号p508議事録参照）

日時：2001年10月5日(金)

12:00 ~ 13:15

場所：イーグレひめじ4階会議室（姫路市）

議長：家 正則評議員

（天文月報2002年1月号p67議事録参照）

3. 理事会

日時：2001年1月13日(土)

11:00 ~ 16:00

場所：国立天文台講義室（三鷹）：新旧合同

議長：田原博人理事長

（天文月報2001年4月号p189議事録参照）

日時：2001年3月28日(水)

12:00 ~ 14:20

場所：千葉大学 総合校舎A号館小会議室

議長：田原博人理事長

（天文月報2001年6月号p274議事録参照）

日時：2001年7月7日(土)

11:00 ~ 16:20

場所：国立天文台講義室（三鷹）

議長：田原博人理事長

（天文月報2001年10月号p505議事録参照）

日時：2001年10月6日(土)

12:00 ~ 13:20

場所：イーグレひめじ4階会議室（姫路市）

議長：田原博人理事長

（天文月報2002年1月号p69議事録参照）

V. 委員会、選挙、共催・後援等、民間の賞・助成、その他

1. 委員会関係

◇ 欧文研究報告編集委員会：2001年度は146編の投稿論文があり、第5号でNobeyama 45-m Telescope、第6号でNANTENの特集を行った。新たにブレイン社と製作委託契約を結び、第1号より電子版の正式公開を開始した。また、投稿用のスタイルファイルを一新し、表紙デザイン・ページレイアウト・紙質なども新しいものに変更した。

◇ 天文月報編集委員会：2001年度は12号発刊で、10月号では「重力波天文学」の特集を、12月号では「アルマ」の特集を行った。本委員会ではDTP作業の効率化を目標として、天文学会事務室内でほとんどの処理を進める体制に移行してきた。また、コストを概ね維持しながら大幅な紙面の増加を実現してきた。また今後のTEX原稿への完全対応およびWeb pageの充実に関する準備作業と検討を行い、2002年度内の実現を予定している。

◇ 年会実行委員会：2001年1月17日(水)および7月13日(金)に国立天文台において開催し、天文学会年会のプログラムを編成した。また、主に年会実行委員の間で用いるメーリングリストを設け、随時、連絡や議論に役立てている。

◇ 天文教育委員会：年会時の公開講演会と天文教育フォーラム（共催）を開催した。プラネタリウムなど一般向け講演会への講師派遣事業を立案し、軌道にのせる努力をしている。

◇ 選挙管理委員会：評議員候補者（任期2002～2005年）の選挙を行った。

◇ 林忠四郎賞選考委員会：2001年度の林忠四郎賞受賞候補者と欧文報告論文賞受賞候補者を選考した。

◇ 研究奨励賞選考委員会：2001年度（第13回目）の研究奨励賞受賞候補者を選考した。

22名の方より23万7千円の寄付を頂いた。

◇ 天体発見賞選考委員会：理事会と協力して、天文功労賞内規(案)を作成した。2001年度の天体発見賞候補者及び天体発見功労賞候補者、今回初めての天文功労賞受賞候補者を選考した。

◇ 内地留学奨学金選考委員会：2002年度の内地留学奨学金の支給希望者を募集し、応募者3名全員を選出した（天文月報2002年1月号参照）。

◇ 早川幸男基金選考委員会：若手天文学研究者の海外学術研究渡航旅費補助の募集を年4回行い、応募者30名のうちの採択者20名（うち中止・辞退が4名あった）に261万8千円を援助した。佐藤明達氏より当基金へ500万円の寄付を頂いた。

◇ ネットワーク委員会：事務所内計算機のバックアップ機能を向上させ、また、学会ホームページの内容を随時更新した。

◇ 天文教材小委員会：メシエ天体 108 枚名刺セット、メシエ天体ポスターを企画・製作した。大学向け「X線天文学で学ぶ物理学(仮称)」の監修を行っている。

◇ IAU 京都総会記念基金：本基金は第 23 回京都 IAU 総会運営委員会からの寄付金 643 万円を創設基金として 1998 年 4 月に設立された。2002 年に、日本で IAU アジア太平洋地域会議が開催される予定があるので、本年は申請の受付を行わなかった。残金約 410 万円は同地域会議で全額使用されることが、理事会及び評議員会で承認されている。

◇ 学術交流費：賛助会員会費で若手研究者の研究成果の発表者に対して、年会旅費補助を行う制度である。2001 年度の春季年会は千葉大学、秋季年会は姫路市で開催され、発表者 142 名に対して 175 万 5 千円の旅費補助を行った。

2. 選挙

◇ 2002 年度、科学研究費補助金審査委員候補者の選出を理事及び評議員で行い、日本学術会議学術体制常置委員会へ推薦した(5月)。

◇ 8 月に、正会員による評議員候補者(任期 2002～2005 年)の選挙を行い、15 名を選出した(天文月報 2001 年 9 月号参照)。

3. 共催・後援等

◇ 国際・国内シンポジウムなどの共催 5 件、後援 8 件、協賛 6 件を行なった。

◇ 2002 年 7 月に、日本で開催予定の IAU アジア太平洋地域会議に関して、共同開催を決定し上野宗孝理事を LOC に推薦した。

4. 民間の賞及び研究助成

◇ (財)山田科学振興財団「2001 年度研究助成」に 2 名を推薦(申請 2 件)した。京都大学大学院理学研究科 鶴 剛氏に 200 万円、茨城大学理学部 百瀬宗武氏に 250 万円の研究援助が行われた。

◇ 第 42 回東レ科学技術賞候補者 1 名(推薦書類 1 件)及び科学技術研究助成候補者 2 名(申請 3 件)を推薦した。

◇ (財)朝日新聞文化財団の 2001 年度朝日賞候補者に 2 件(推薦書類 2 件)を推薦した。

◇ (財)井上科学振興財団の第 18 回井上学術賞候補者に 1 名(推薦書類 1 件)を推薦した。

5. その他

◇ 文部科学省より、科学研究費補助金「研究成果公開促進費」(研究成果公開発表 B)に対して、66 万円が交付された。

◇ 日本学術振興会より、科学研究費補助金「研究成果公開促進費」(学術定期刊行物)に対して、740 万円が交付された。

◇ 会員からの PASJ 寄贈 52 部のうち 45 部を発展途上国及び PASJ 購入困難な国に寄贈(21ヶ国)している。

◇ 「学術用語集・天文学編(増刷版)の修正について」の要望書を、文部科学省学術研究助成課河村課長に提出した。

◇ 「宇宙 3 機関の統合に関する要望書」を遠山文部科学大臣へ提出した。また、その写しを統合準備会議メンバー全員へ送付した。

◇ (社)日本図書館協会分類委員会宛に、「日本十進分類法に関する要望書」(未確認飛行物体(UFO)を天文学に関わる分類から外し、他の分類に移して載く)を提出した。

会員数

2001 年 12 月 31 日現在の会員数は以下の通りである。

	正会員(学生含)	準会員	団体会員	賛助会員	合計
2000 年 12 月 31 日	1,396 (260)	1,348	42	45	2,831
入 会	92 (83)	33	2	3	130
退 会	69 (31)	129	2	5	205
移籍(増)	8 (2)	54	0	0	62
移籍(減)	54 (11)	8	0	0	62
2001 年 12 月 31 日	1,373 (303)	1,298	42	43	2,756

(注：移籍とは正会員、準会員と団体会員の間の移動のことを指す)

定款第 12 条に基づき、3 月の評議員会議決を経て、正会員 19 名(内学生 10 名)、準会員 24 名、団体会員 1 件が 1999 年度からの会費未納のため除名された。

(文責 庶務理事：郷田直輝)

[第2号議案]

社団法人 日本天文学会 2001 年度決算報告(案)

1. 一般会計

収支計算書

2001 年 1 月 1 日～2001 年 12 月 31 日

[収入の部]

(単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額
基 本 財 産 運 用 収 入	50,000	26,303
基本財産利息収入	50,000	26,303
会 費 収 入	34,215,000	35,511,100
正会員会費	18,990,000	20,375,500
正会員(学生)会費	3,835,000	4,134,000
準会員会費	10,960,000	10,581,600
団体会員会費	430,000	420,000
事 業 収 入	22,070,000	32,303,274
欧文研究報告発行事業収入	10,300,000	19,424,822
購 読 料	4,300,000	4,826,239
掲 載 料	4,000,000	8,811,450
別 刷 代	2,000,000	5,787,133
天文月報発行事業収入	4,820,000	5,106,852
購 読 料	900,000	755,902
別 刷 代	720,000	1,827,650
広 告 料	3,200,000	2,523,300
年 会 事 業 収 入	6,950,000	7,771,600
予 稿 集 頒 布 収 入	2,800,000	2,573,800
登 録 料 収 入	3,900,000	4,962,000
年 会 雑 収 入	250,000	235,800
補 助 金 等 収 入	6,700,000	8,060,000
刊 行 物 補 助 金	6,000,000	7,400,000
公 開 講 演 会 補 助 金	700,000	660,000
寄 付 金 収 入	20,000	54,000
寄 付 金 収 入	20,000	54,000
印 税 収 入	2,500,000	1,555,458
星 座 早 見 印 税	2,000,000	1,188,600
そ の 他 の 印 税	500,000	366,858
雑 収 入	1,050,000	1,358,338
受 取 利 息	50,000	19,086
特 別 企 画 収 入	200,000	895,272
そ の 他 の 収 入	800,000	443,980
当 期 収 入 合 計 (A)	66,605,000	78,868,473
繰 越 収 支 差 額	18,501,925	13,041,372
収 入 合 計 (B)	85,106,925	91,909,845

[支出の部]

(単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額
事 業 費	53,541,000	53,826,386
欧文研究報告発行事業費	26,220,000	29,904,538
直 接 出 版 費	16,000,000	18,246,465
別 刷 印 刷 費	1,640,000	1,468,236
人 件 費	5,350,000	7,142,468
謝 金	990,000	1,098,880
送 料 運 搬 費	2,070,000	1,790,816
消 耗 品 費	120,000	126,491
雑 費	50,000	31,182
天文月報発行事業費	19,921,000	17,866,293
直 接 出 版 費	11,720,000	9,829,572
別 刷 印 刷 費	600,000	801,502
人 件 費	1,040,000	1,299,615
謝 金	2,561,000	2,336,569
送 料 運 搬 費	3,100,000	3,032,206
消 耗 品 費	500,000	539,829
雑 費	400,000	27,000
年 会 事 業 費	7,400,000	6,055,555
予 稿 集 印 刷 費	2,400,000	2,367,645
謝 金	1,000,000	889,700
送 料 運 搬 費	500,000	285,722
会 場 費	1,200,000	284,155
消 耗 品 費	300,000	298,159
人 件 費	1,200,000	1,299,941
雑 費	200,000	197,710
旅 費 交 通 費	600,000	262,420
保 育 室 運 営 経 費	—	170,103
管 理 費	18,910,000	19,182,880
人 件 費	7,800,000	7,535,463
謝 金	500,000	261,500
議 費	200,000	260,266
負 担 金	150,000	122,000
旅 費 交 通 費	1,500,000	1,541,870
送 料 通 信 費	1,000,000	824,283
什 器 備 品 費	1,500,000	919,233
消 耗 品 費	1,100,000	1,120,997
印 刷 製 本 費	750,000	200,760
光 熱 水 料 費	250,000	260,458
賃 借 料	2,000,000	2,028,039
保 険 料	160,000	225,578
諸 手 数 料	200,000	495,686
修 繕 費	300,000	50,400
書 籍 購 入 費	400,000	155,991
特 別 企 画 調 製 費	600,000	957,985
公 開 講 演 会 諸 経 費	—	1,033,878
雑 費	500,000	707,493
徴 収 不 能 額	0	481,000
特 定 預 金 支 出	175,000	191,000
退職給与引当預金支出	175,000	191,000
予 備 費	12,480,925	—
当 期 支 出 合 計 (C)	85,106,925	73,200,266
当 期 収 支 差 額 (A-C)	△18,501,925	5,668,207
次 期 繰 越 収 支 差 額 (B-C)	0	18,709,579

貸借対照表

2001年12月31日現在

(単位：円)

正味財産増減計算書

2001年1月1日～2001年12月31日

(単位：円)

科 目	金 額		
[資産の部]			
流動資産			
現金預金	29,741,083		
未収会費	2,711,775		
貯蔵品	1,948,498		
有価証券	5,700,000		
未収入金	6,099,160		
流動資産合計		46,200,516	
固定資産			
基本財産			
投資有価証券	12,310,000		
基本財産合計	12,310,000		
その他の固定資産			
什器備品	2,836,554		
投資有価証券	1,200,000		
退職引当預金	191,000		
減価償却引当預金	3,521,389		
その他の固定資産合計	7,748,943		
固定資産合計		20,058,943	
資産合計			66,259,459
[負債の部]			
流動負債			
未払金	1,205,844		
前受金	1,046,000		
前受会費	23,290,595		
流動負債合計		25,542,439	
固定負債			
退職給与引当金	191,000		
固定負債合計		191,000	
負債合計			25,733,439
[正味財産の部]			
正味財産			40,526,020
(うち基本金)			(12,310,000)
(うち当期正味財産増加額)			(4,550,578)
負債及び正味財産合計			66,259,459

科 目	金 額		
[増加の部]			
資産増加額			
当期収支差額	5,668,207		
貯蔵品増加額	525,473		
退職給与引当預金増加額	191,000		
減価償却引当預金増加額	3,289	6,387,969	
負債減少額			
増加額合計			6,387,969
[減少の部]			
資産減少額			
什器備品減価償却額	1,067,481		
什器備品廃棄額	578,910	1,646,391	
負債増加額			
退職給与引当金繰入額	191,000	191,000	
減少額合計			1,837,391
当期正味財産増加額			4,550,578
前期繰越正味財産額			35,975,442
期末正味財産合計額			40,526,020

財 産 目 録
2001 年 12 月 31 日現在

(単位：円)

科 目	金 額		
[資産の部]			
流 動 資 産			
現 金 預 金	29,741,083		
現金 現金手許有高	16,587,508		
普 通 預 金	13,153,575		
東 京 三 菱 銀 行	13,012,168		
住 友 信 託 銀 行	141,407		
未 収 会 費	2,711,775		
貯 蔵 品	1,948,498		
有 価 証 券	5,700,000		
未 収 入 金	6,099,160		
流 動 資 産 合 計		46,200,516	
固 定 資 産			
基 本 財 産			
投 資 有 価 証 券	12,310,000		
基 本 財 産 合 計	12,310,000		
そ の 他 固 定 資 産			
什 器 備 品	2,836,554		
投 資 有 価 証 券	1,200,000		
退 職 引 当 預 金	191,000		
減価償却引当預金	3,521,389		
そ の 他 固 定 資 産 合 計	7,748,943		
固 定 資 産 合 計		20,058,943	
資 産 合 計			66,259,459
[負債の部]			
流 動 負 債			
未 払 金	1,205,844		
前 受 金	1,046,000		
予 稿 集 前 受	1,046,000		
前 受 会 費	23,290,595		
正 会 員 会 費	14,441,000		
正会員（学生）会費	1,734,000		
準 会 員 会 費	7,075,595		
団 体 会 員 会 費	40,000		
流 動 負 債 合 計		25,542,439	
固 定 負 債			
退 職 給 与 引 当 金	191,000		
固 定 負 債 合 計		191,000	
負 債 合 計			25,733,439
正 味 財 産			40,526,020

[注] 流動資産のうち現金預金の金額には、負債の部に計上されている 2002 年度分等の前受金・前受会費を合算した金額が含まれている。

2. 特別会計

(1) 学術交流費会計

収支計算書

2001年1月1日～2001年12月31日 (単位:円)

科 目	予算額	決算額
[収入の部]		
賛助会員会費収入	1,770,000	1,590,000
受 取 利 息	5,000	236
当 期 収 入 合 計 (A)	1,775,000	1,590,236
前 期 繰 越 収 支 差 額	1,327,837	1,886,810
収 入 合 計 (B)	3,102,837	3,477,046
[支出の部]		
学 術 交 流 費	2,000,000	1,755,000
雑 費	3,000	645
当 期 支 出 合 計 (C)	2,003,000	1,755,645
当 期 収 支 差 額 (A)-(C)	△ 228,000	△ 165,409
次 期 繰 越 収 支 差 額 (B)-(C)	1,099,837	1,721,401

貸借対照表

2001年12月31日現在

科 目	金 額
[資産の部]	
流 動 資 産	
現 金 預 金	1,571,401
未 収 会 費	300,000
流 動 資 産 合 計	1,871,401
資 産 合 計	1,871,401
[負債の部]	
流 動 負 債	
前 受 会 費	150,000
流 動 負 債 合 計	150,000
負 債 合 計	150,000
[正味財産の部]	
正 味 財 産	1,721,401
(うち当期正味財産減少額)	(165,409)
負 債 及 び 正 味 財 産 合 計	1,871,401

財 産 目 録

2001年12月31日現在

[資産の部]			
流 動 資 産			
現 金 預 金	1,571,401		
普 通 預 金	1,571,401		
東京三菱銀行	1,571,401		
未 収 会 費	300,000		
流 動 資 産 合 計		1,871,401	
資 産 合 計			1,871,401
[負債の部]			
流 動 負 債			
前 受 会 費	150,000		
賛助会員会費	150,000		
流 動 負 債 合 計		150,000	
負 債 合 計			150,000
正 味 財 産			1,721,401

(2) 内地留学奨学会会計

収支計算書

2001年1月1日～2001年12月31日 (単位:円)

科 目	予算額	決算額
[収入の部]		
受 取 利 息	28,000	8,247
当 期 収 入 合 計 (A)	28,000	8,247
繰 越 収 支 差 額	4,107,000	4,219,218
収 入 合 計 (B)	4,135,000	4,227,465
[支出の部]		
奨 学 金 支 出	250,000	100,000
雑 費	3,000	735
旅 費 支 出	50,000	0
当 期 支 出 合 計 (C)	303,000	100,735
当 期 収 支 差 額 (A)-(C)	△ 275,000	△ 92,488
次 期 繰 越 収 支 差 額 (B)-(C)	3,832,000	4,126,730

貸借対照表

2001年12月31日現在

科 目	金 額
[資産の部]	
流 動 資 産	
現 金 預 金	426,730
有 価 証 券	3,700,000
流 動 資 産 合 計	4,126,730
資 産 合 計	4,126,730
[正味財産の部]	
正 味 財 産	4,126,730
(うち当期正味財産減少額)	(92,488)
負 債 及 び 正 味 財 産 合 計	4,126,730

財 産 目 録

2001年12月31日現在

[資産の部]			
流 動 資 産			
現 金 預 金	426,730		
普 通 預 金	426,730		
住友信託銀行	426,730		
有 価 証 券	3,700,000		
流 動 資 産 合 計		4,126,730	
資 産 合 計			4,126,730
正 味 財 産			4,126,730

(3) 研究奨励賞会計

収支計算書

2001年1月1日～2001年12月31日 (単位:円)

科 目	予算額	決算額
[収入の部]		
寄 付 金 収 入	250,000	237,000
受 取 利 息	5,000	624
当 期 収 入 合 計 (A)	255,000	237,624
前 期 繰 越 収 支 差 額	5,472,454	5,721,070
収 入 合 計 (B)	5,727,454	5,958,694
[支出の部]		
研 究 奨 励 賞 支 出	200,000	200,000
雑 費	10,000	30,333
旅 費 支 出	50,000	40,000
当 期 支 出 合 計 (C)	260,000	270,333
当 期 収 支 差 額 (A)-(C)	△ 5,000	△ 32,709
次 期 繰 越 収 支 差 額 (B)-(C)	5,467,454	5,688,361

貸借対照表

2001年12月31日現在

科 目	金 額		
[資産の部]			
流 動 資 産			
現 金 預 金	986,361		
定 額 預 金	4,702,000		
流 動 資 産 合 計		5,688,361	
資 産 合 計			5,688,361
[正味財産の部]			
正 味 財 産			5,688,361
(うち当期正味財産減少額)			(32,709)
負債及び正味財産合計			5,688,361

財産目録

2001年12月31日現在

[資産の部]			
流 動 資 産			
現 金 預 金	986,361		
現金 現金手許有高	603,033		
郵便 預 金	383,328		
普 通 預 金	0		
東京三菱銀行	0		
定 額 預 金	4,702,000		
流 動 資 産 合 計		5,688,361	
資 産 合 計			5,688,361
正 味 財 産			5,688,361

(4) 早川幸男基金会計

収支計算書

2001年1月1日～2001年12月31日 (単位:円)

科 目	予算額	決算額
[収入の部]		
寄 付 金 収 入	1,000,000	5,000,000
受 取 利 息	90,000	38,135
当 期 収 入 合 計 (A)	1,090,000	5,038,135
前 期 繰 越 収 支 差 額	18,550,000	23,375,711
収 入 合 計 (B)	19,640,000	28,413,846
[支出の部]		
研 究 補 助 支 出	2,700,000	2,618,515
雑 費	10,000	10,120
当 期 支 出 合 計 (C)	2,710,000	2,628,635
当 期 収 支 差 額 (A)-(C)	△1,620,000	2,409,500
次 期 繰 越 収 支 差 額 (B)-(C)	16,930,000	25,785,211

貸借対照表

2001年12月31日現在

科 目	金 額		
[資産の部]			
流 動 資 産			
現 金 預 金	785,211		
有 価 証 券	25,000,000		
流 動 資 産 合 計		25,785,211	
資 産 合 計			25,785,211
[正味財産の部]			
正 味 財 産			25,785,211
(うち当期正味財産増加額)			(2,409,500)
負 債 及 び 正 味 財 産 合 計			25,785,211

財産目録

2001年12月31日現在

[資産の部]			
流 動 資 産			
現 金 預 金	785,211		
普 通 預 金	785,211		
東京三菱銀行	601,171		
住友信託銀行	184,040		
有 価 証 券	25,000,000		
流 動 資 産 合 計		25,785,211	
資 産 合 計			25,785,211
正 味 財 産			25,785,211

(5) 林 忠四郎賞会計

収支計算書

2001年1月1日～2001年12月31日 (単位:円)

科 目	予算額	決算額
[収入の部]		
受 取 利 息	60,000	22,843
当 期 収 入 合 計 (A)	60,000	22,843
前 期 繰 越 収 支 差 額	15,900,000	16,107,937
収 入 合 計 (B)	15,960,000	16,130,780
[支出の部]		
林 賞 支 出	300,000	300,000
雑 費	30,000	869,337
旅 費 支 出	50,000	136,000
当 期 支 出 合 計 (C)	380,000	1,305,337
当 期 収 支 差 額 (A)-(C)	△ 320,000	△1,282,494
次 期 繰 越 収 支 差 額 (B)-(C)	15,580,000	14,825,443

貸借対照表

2001年12月31日現在

科 目	金 額		
〔資産の部〕			
流 動 資 産			
現 金 預 金	825,443		
有 価 証 券	14,000,000		
流 動 資 産 合 計		14,825,443	
資 産 合 計			14,825,443
〔正味財産の部〕			
正 味 財 産			14,825,443
(うち当期正味財産減少額)			(1,282,494)
負債及び正味財産合計			14,825,443

財 産 目 録

2001年12月31日現在

[資産の部]			
流 動 資 産			
現 金 預 金	825,443		
普 通 預 金	825,443		
東京三菱銀行	0		
住友信託銀行	825,443		
有 価 証 券	14,000,000		
流 動 資 産 合 計		14,825,443	
資 産 合 計			14,825,443
正 味 財 産			14,825,443

(6) IAU 記念基金会計

収支計算書

2001年1月1日～2001年12月31日 (単位:円)

科 目	予算額	決算額
[収入の部]		
受 取 利 息	20,000	9,479
当 期 収 入 合 計 (A)	20,000	9,479
前 期 繰 越 収 支 差 額	4,100,000	4,117,714
収 入 合 計 (B)	4,120,000	4,127,193
[支出の部]		
旅 費 支 出	3,000,000	0
当 期 支 出 合 計 (C)	3,000,000	0
当 期 収 支 差 額 (A)-(C)	△2,980,000	9,479
次 期 繰 越 収 支 差 額 (B)-(C)	1,120,000	4,127,193

貸借対照表

2001年12月31日現在

科 目	金 額		
[資産の部]			
流 動 資 産			
現 金 預 金	127,193		
有 価 証 券	4,000,000		
流 動 資 産 合 計		4,127,193	
資 産 合 計			4,127,193
[正味財産の部]			
正 味 財 産			4,127,193
(うち当期正味財産増加額)			(9,479)
負債及び正味財産合計			4,127,193

財 産 目 録

2001年12月31日現在

[資産の部]			
流 動 資 産			
現 金 預 金	127,193		
普 通 預 金	127,193		
住友信託銀行	127,193		
有 価 証 券	4,000,000		
流 動 資 産 合 計		4,127,193	
資 産 合 計			4,127,193
正 味 財 産			4,127,193

監査報告書

2001 年度事業報告書、2001 年度決算報告書について、
関係書類と共にその内容を監査した結果、法令及び定款に
照らして正当であることを認めます。

2002 年 1 月 11 日

社団法人 日本天文学会

監事 奥田治之 印

監事 小杉健郎 印

早川幸男基金受給者募集要項

早川幸男基金への次回の申請締切りは
2002 年 3 月 10 日です。なお、2001 年 6
月 10 日締切り分までとは、申請方法が大
幅に変更されましたのでご注意ください。

以前の申請用紙を用いたものは認められ
ません。詳細は、天文学会のホームページ
<http://www.asj.or.jp/>の「早川幸男基金」の
部分をご覧ください。若手天文学研究者の皆様
の積極的な応募をお待ちしております。

早川幸男基金選考委員会

日本天文学会 早川幸男基金への寄付のお知らせ
(若手海外学術研究援助基金)

2002 年 1 月 15 日に、(社) 日本天文学会会員の佐藤明達
氏より当基金へ 500 万円のご寄付を頂きました。

佐藤明達氏に御礼申し上げると共に会員の皆様にお知
らせ致します。

社団法人 日本天文学会
理事長 田原博人

(社) 日本天文学会へ 2001 年 10 月 6 日から 2002 年 1 月 12 日までの間に入会された方、退会された方をお知らせします。

* 正会員新入会者 (22 名)

大塚雅昭 東北大・院・天文 (在学)
西田大輔 京大・院・物理第二 (在学)
松村光一 エレナ松村
松永真由美 愛媛大・工学部
北畠悦子 大阪教育大・院 (在学)
山内 彩 九州大・院・理 (在学) / 野辺山
野沢貴也 北大・理 (在学)
高橋芳太 京大・院・宇宙物理 (在学)
上原 隼 東京学芸大・院・理科教育 (在学)
白水麻里意 東大・院・天文 (在学)
松田健太郎 東北大・院・天文 (在学)

小林梨絵 東北大・理 (在学)
本川正美 大阪教育大・院・総合基礎科学 (在学)
佐藤彰子 名大・院 (在学) / 東大総合文化
神川えりか 東北大・院・天文 (在学)
内藤博之 九州大・院・基礎粒子 (在学)
相馬照仁 大阪府立大・院・理 (在学)
山崎 了 京大・院・理 (在学)
今井弘二 京都産業大・院・物理 (在学)
井上太郎 国立天文台・理論天文学研究系
江ノ口英之 大阪大・院・宇宙地球科学 (在学)
錦織弘充 千葉大・院・理化学 (在学)

＊準会員新入会者（6名）

坂井 健 札幌市
山崎 魏 大阪府
藤田正吾 館山市
板倉文弥 仙台市
難波賢吉 岡山市
吉田英人 東大・院・地球惑星科学（在学）

＊団体会員新入会（1ヶ所）

ダイニツクアストロパーク天究館

＊移籍会員〔準→正〕（4名）

田島あさみ 放送大学教養学部宇宙地球科学（在学）
前田良知 宇宙科学研究所
和田節子 電気通信大学
小笹隆司 北海道大・院・地球惑星科学

＊移籍会員〔正→準〕（35名）

阿部 正 須加雅子 野口 猛 尾林彩乃 白鳥 裕
寺田健太郎 梅津 実 高部規子 増沢 等
石坂千春 横川 淳 田邊弥一郎 角田忠一
高柳雄一 松本惇逸 布村克志 中川克也
油井一山下由香利 田鍋浩義 山崎 昭 友野大悟
福田毅哉 古谷久美子 斎藤 衛 小倉 潤
高田昌広 金野幸吉 大曾根聡子 芹川治邦
松山直仁 三谷哲康 吉田久美 林 弘文 作花一志
山崎高幸

＊退会団体会員（1ヶ所）

唐津東高等学校

＊退会賛助会員（3社）

ダイニツクアストロパーク天究館（賛助→団体）
宇宙開発事業団
（株）ユニバーサル・アカデミー・プレス

＊退会正会員（55名）

赤羽徳英 樋口澄生 伊藤 猛 吉岡 努 山口真澄
江間徹郎 岡崎清市 奥村健市 高梨雅彰 向井苑生
水谷昌彦 小川口 渉 篠原利夫 原島 隆
小林直樹 中村 健 増永浩彦 豊田秋一郎
谷畑千春 細沼正靖 宮本幸男 馬場 歩 奥上将光
伊藤和男 遠藤貴雄 中村敬喜 鈴木喜雄 大里貴広
柳橋 歩 布施谷洋帆 藤田真之 藤野雅子
柳 桂和 池田優二 斉藤卓弥 東矢高尚 西村徹郎
武藤耕多 表 泰秀 大田基在 高野敏史 中井善寛
芳賀一壽 望月賢治 阿久津大介 岡村吉彦
高橋正昭 原口 圭 浅井 良 折戸 学 高峰康修
田口泰雄 平山雄三 西川敦子 有川裕司

＊退会準会員（88名）

秋田 仁 加納 隆 清尾憲吾 諸井恒一 古川敏雄
榎本孝司 荒川 毅 上西啓祐 高崎 洋 山浦俊郎
牧村敏隆 石川正夫 井上圭典 川尻轟大 田鎖周治
富田啓一 藤崎和年 杉江 満 入江 誠 河野嗣男
武市盛生 鳥居近吉 吉澤宜之 村口宜史 岩切道雄
後藤利紀 田中明法 中嶋隆三 中国昭彦 齋藤秀和
牛山悦男 小林宏志 田辺清一 中村信朗 松本直弥
岩本のり子 太田守彦 斉藤孝夫 丸山修一
西川 登 蓮井 隆 飯沢能布子 岡村満穂
佐藤隆夫 宮本重徳 西澤正美 木下貴陽
湯山萬壽夫 小俣一郎 柴崎 肇 村上真幸
早瀬正郎 村尾耕一 原田光次郎 金子 秀
庄司善徳 村澤藤作 本田和生 新井 優 平尾淳一
厚見 護 石井省三 崔 容碩 江口昌利 鈴木数成
若狭 功 今村 等 中井新二 富沢充芳 堀 晴雄
藤田 靖 佐藤武志 若林光幸 高橋知昭 湯本 敏
合屋研之 天間崇文 篠田良栄 趙 章熙 竹島敏明
藤村俊夫 平 一弘 浦崎太郎 磯部重光 竹原 浩
丸山善久 久保伸一郎 喜屋武昌一

編集委員 上野宗孝（編集長）、伊藤孝士、上田暁俊、大石奈緒子、太田耕司、

小野智子、斎藤芳隆、土橋一仁、内藤統也、藤田 裕

平成14年2月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会

印刷発行 印刷所 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町 565-12 啓文堂 松本印刷

定価700円（本体667円）発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会

Tel: 0422-31-1359（事務室）／0422-31-5488（月報・欧文編集） Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595

日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: jimu@geppou.asj.or.jp DTP: 峯尾由紀子